



第2640地区

創立 昭和26年(1951)2月16日  
 例会日 毎週木曜日12:30  
 例会場 ホテル・アゴラーリ・ジェンシー大阪堺3F  
 TEL (072) 224-1121  
 〒590-0985 堺市堺区戎島町4-45-1  
 事務所 ホテル・アゴラーリ・ジェンシー大阪堺8F  
 TEL (072) 238-3250  
 FAX (072) 232-3711  
 会長 東野 裕 暢  
 幹事 奥 中 泰 征  
 会報担当 ~~提 提~~  
 竹 島 尚 弘



## ロータリーは 機会の扉を開く

2020-21年度国際ロータリー会長  
ホルガー・クナーク

四  
つ  
の  
テ  
ス  
ト

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

<https://www.sakai-rc.jp/>

<http://rid2640g.com/fujii/>

### 特別号 (12)

#### <今年度内の例会見通しについて>

5/25、大阪府は、緊急事態宣言の期限再延長を政府に要請する事を決定しました。再延長期間は最後、国の判断となりますが、6/20への延長が濃厚と思われます。

本情勢とこれ迄の「緊急事態宣言下では休会」とを合わせ考慮し、理事役員会での合意に基づき以下の通りとします。

- ①6/3, 6/10, 6/17を休会とし、Onlineインフォーマルミーティングを行う。
- ②緊急事態宣言解除が繰り上がれば速やかに例会再開を検討し、追ってご連絡。
- ③①の想定通りであれば、年間行事予定で休会だった6/24を今年度最終例会とし、多行事となる点等に鑑み、同例会を30分延長し、14時迄とする。

以上、大変心苦しい判断となりますが、「引き続き会員の安全と医療への負荷回避に資する運営を最優先とする」為、本休会に会員皆様のご理解ご協力を重ねてお願い申し上げます。

### <会長の時間に替えて>

東野裕暢

#### “幸せ”を測ると“密”

マスクを付け、密を避ける日々が続きます。皆さん至る所で頑張ってお家で過ごしてはいますがやはり…。

ところで、幸せ度を測る(数値化する)技術を追求している会社をご存知でしょうか? 昨年7月に日立製作所が設立したハピネスプラネットです。ごく簡単に例えると、人がうなずいたり、心地よい気分の時のジェスチャーだったりを、微小な体の揺らぎと関連付け、それを心の状態(幸福度)として数値化するそうです。又、メンバーが幸せを感じる職場には幾つの特徴があり、5分程度の短い会話が頻りに交わされており、その会話の時の体の動きも相手に同調させながらの動きが多いそうです。

そうかもしれません、うなずいて肯定してもらうのは心地よく、会話のキャッチボールが頻りにあるのは、快適な人間関係の証と納

得できます。こうした快適＝幸福を高める為、それを測定できると、例えば職場では、創造性や生産性の向上に役立ち、更には個人レベルでは、幸福度の高い人に低金利で融資ができたり、地域レベルでは、住民の幸福度が高い都市を開発したりと、新たな産業の構想まで繋っていくそうです。以上は、日立製作所のHPや同社フェローでハピネスプラネットCEOの矢野和男氏の著作物から抜粋引用しました。

よくよく考えてみますと、“幸せ”な状態、創造的で生産的な状態だとこの理論で計測される状態とは、人と人とが濃密に接触するいわゆる3密の状態そのもの。そこで彼らは、バーチャルな3密状態をつくれなかと研究しているそうです。そして既に数十の商談も進行中だそうで、「製造業や金融、官庁など様々な企業・団体が幸せを求めている」と矢野氏は話しておられます。

まさしく日立、Inspire the Nextですね。

RCの1丁目1番地の例会が開催できない本年、奥中幹事のテクノロジーに支えられ何とか、Onlineインフォーマルミーティングを続けています。

そしてその中で参加者がお互い“密”を感じられるよう、“幸せ”に近づけるよう精一杯努力しているつもりですが、羊頭狗肉の域を出ていないかもしれません。それでも期初に掲げた活動計画の第1番目「大変な事があり、困難な時だからこそロータリーの扉を積極的に開く」事を、そして会員皆さんが“幸せ”を少しでも多く感じられるよう、残余の時間も努力し続けたいと思います。

## 臨時理事役員会議事録

日 時 2021年5月21日（金）メール・FAX  
出席者 東野・高橋・佐野・福井・神山  
林・石崎・畑崎・神吉・田内・奥中  
松尾・木澤 （敬称略）

### I. 議 案

#### 1. 入会候補者審査の件

Ⅱ氏 2回目 承認

## 臨時理事役員会議事録

日 時 2021年5月24日（月）メール・FAX  
出席者 東野・高橋・佐野・福井・神山  
林・石崎・畑崎・神吉・田内・奥中  
松尾・木澤 （敬称略）

### I. 議 案

#### 1. 今後の例会について

##### A 起案に当たり現下の状況整理

5/24現在、緊急事態宣言の期限をこれ迄の5月末から最大で6/20頃まで延長される案が出ているとの報道。

本情勢とこれ迄の「緊急事態宣言下では休会」とを合わせ考慮し、今年度内の例会見通しを以下の通りとし、随時対応。

##### B 議案

#### 1. 例会スケジュールについて

①次週6/3を休会とし、Onlineインフォーマルミーティングを行う。6/10、6/17は、都度情勢判断して決定するも宣言未解除の時は6/3に同じ。

②報道通り6/20で解除となった場合、行事予定表で年度末休会となっている6/24に例会を開催。

③6/24は今年度最終例会となる事、入会予定の例会見学複数ある事、年度末転勤者が予想される事などの事情に鑑み、同例会を30分延長し、14時迄とする。

2. 6月度新旧合同理事役員会について  
本年度締め括り時期である事、次年度が間近に迫っている事に鑑み、6月第2週のどこかでリアル新旧合同理事役員会をホテルの大きな部屋を借り、感染対策に万全を期した上で実施する。但し、参加者の事情によりリアル参加不都合の際は、Zoomを立ち上げ、Online参加可能も準備する。 承認

## 5月のロータリーレート

1ドル=109円

ご協力よろしくお願い申し上げます。

R財団委員会より

## **フォト同好会**

— 芍 薬 —



熊野道夫会員

ハイライトよねやま 254号

## 寄付金速報

### — 4月単月はやや回復 —

4月までの寄付金は前年同期と比べて0.7%減（普通寄付金:0.4%減、特別寄付金:0.8%減）、約790万円の減少となりました。ただ、4月単月の寄付額を見ると過去3年間で最も多く、復調への兆しも見えます。全国的に例会を休会しているクラブが多い中、ロータリアンの皆様からのご支援に深く感謝申し上げます。まだ収束の見通しが立たず、今後の不安も残りますが、これからも当奨学事業へのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

## 「ロータリーの友」で

### 学友の寄稿を連載中

『ロータリーの友』に毎号、「よねやまだより」のページがあることをご存じでしょうか？今年度からは好評の新シリーズ、「米山から世界の町へ」を連載中です。米山学友が自分の住む町の紹介や自身の近況をつづりながら、日本のロータリアンへ向けたメッセージを書いています。海外との往来が制限されている昨今ですが、近い将来、ぜひ学友の母国や地元を訪ねてみてはいかがでしょうか。現地から、そうしたレポートを書いてくれる学友がいましたら、[seminar@rotary-yoneyama.or.jp](mailto:seminar@rotary-yoneyama.or.jp)（広報担当：野津）までご連絡ください。

(5月13日発行)

## 炉辺談話

### 「決議23-34に思う」



第2680地区（尼崎西）

PDG 石井 良昌

決議23-34は我々源流の会がめざす奉仕の理念について書かれています。

数多いロータリーの公式文書の中で奉仕理念に触れているのは「決議23-34」のみです。

ロータリーの2つのモットーはService above self とHe profits most who serves best.

という2つの奉仕理念があります。

その1つはService above self（超我の奉仕）で他人のことを思いやり、他人のために尽くすことと定義されている社会奉仕、国際奉仕を含む人道的奉仕活動の理念です。

もう1つは、He profits most who serves best.（最もよく奉仕する者最も多く報いられる）というモットーで表していて、事業の継続的な繁栄を願う職業奉仕の理念であります。これはアーサー・フレデリック・シェルドンによって提唱されたものであります。ロータリー運動の本質ともいふべき職業奉仕の理念であります。

さて、一般的に決議23-34と言われているのは、これが1923年に開催されたセントルイス国際大会に提出された第34号議案であったか

らです。この決議23-34がロータリーにとって極めて重要なドキュメントであることは間違いありません。

ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕—「超我の奉仕」の哲学で別に表すと「利己と利他の調和」となります。この利己と利他の調和は自分さえよかったらいいという考えはダメです、とロータリーの心構えが書かれていると断言できます。

私たちはロータリーでI serve, We serveと表現しておりますが、決議23-34の中での表現は individual service（個々人の奉仕）および collective service（集団の奉仕）と書かれています。ロータリーはあくまで individual service（個々人の奉仕）であります。しかし、奉仕の心を培ったロータリアンの個々人が集まって、すなわちクラブや地区といった団体が行なう個々人の奉仕を Collective service（集団の奉仕）と呼んでいます。

すでに1923年の決議23-34の文中に個人奉仕である individual service と集団の奉仕である collective service をするように奨励しています。クラブで行なう地区補助金やグローバル補助金での奉仕活動は団体奉仕となります。そこで、ロータリーは I serve, ライオンズは We serve という考え方は世のため、人のために尽くそうとする仲間の一つの考え方と理解しますが、実は違います。

ロータリーは I serve ではなく individual service（個々人の奉仕）なのであります。

(2018.08.28)